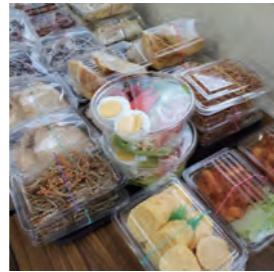


子どもたちが『ありのまま』でいられる居場所  
運営団体：一般社団法人 キラキラヒカル



子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津は、子どもたちの『ありのまま』の姿を大切に、子どもたちが文字通り『自由』に過ごせる居場所づくりを心掛けて運営されています。放課後児童支援委員、チャイルドカウンセラー、家庭療法カウンセラーの有資格者スタッフも在籍。居場所での子どもたちへの見守りに加え、子どもや家庭からの個別相談を受け付け、必要な支援へとつなげられています。課題を感じられる家庭には、子ども宅食活動での訪問他、積極的にコミュニケーションをとり、現状把握と課題解決に向けた支援(模索・実施)を能動的に取り組まれています。また、子どもの居場所において、手作りお惣菜やおやつ



販売コーナーを設け、ひとり親家庭や仕事などで帰りの遅いお母さんの負担軽減にも取り組み、令和4年度からは、経済的課題を抱える家庭のために、唐津市内すべての中・高校の学生服、学用品、及び子ども服を地域内で循環させる『学生服バンク\*』プロジェクトを始動。子どもの居場所事業を柱に、子どものライフステージにあわせた総合的な支援に取り組まれています。



事業によって得られた成果

こどもの居場所を開所して4年、少しずつではありますが地域に根付いた活動となってきました。地元自治体や学校などと情報を共有する場を持つようになり、学校に行くことが困難な子どもや、様々な困難を抱えたご家庭など、居場所だけでは解決が難しい事柄についても連携して取り組みを進めています。特に気になるご家庭には毎月1回訪問をして、食品を届けるとともに状況の確認と把握を行っています。

また本人や家族の方と定期的にコミュニケーションを続けることによって、SOSが出しやすい環境づくりに努めてまいりました。助成期間中に当法人のホームページを作成・公開することにより、より多くの方々に活動の周知を行う事ができました。居場所の開催日や実施したイベントの情報を公開することで、信用の向上にも努めています。おかげさまでこの期間中、食品などの寄付も増加してきています。

運営後に見えてきた課題と対応案

アフターコロナとなり、地域の公民館行事が元に戻ってきたことで、居場所の開所が困難な機会が増えました。開催を維持するために、場所をどのように確保していくかが今後の課題となっています。第三の居場所を継続的に運営するためには、支えていた

だけの賛助会員の皆さまをさらに増やしていかなければなりません。私たちの活動をより広く周知し、多くの皆さまの共感を得ながら、共にこの活動をつづけていきたいと思えます。

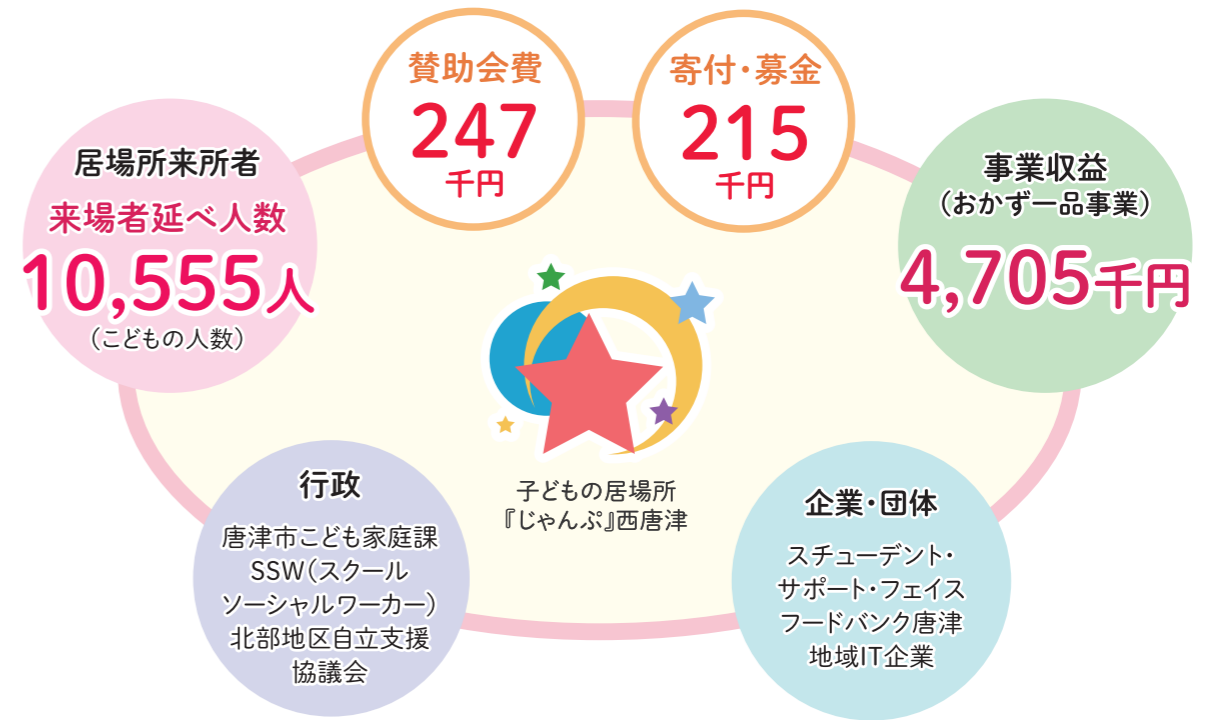
※ 学生服バンクプロジェクト「こねくとnet」について

学校卒業後、ご家庭で不要になった学生服や学用品、子ども服などの寄贈を受けて、取りまとめ、補正・補修などを行い、経済的な理由で学生服等を購入することが困難な子どもたちへつなぐ活動です。



■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



利用者コメント 本吉佳子さん

子どもたちの笑顔があふれる心地よい「じゃんぷ」がこれから先も継続・発展されますことを心より願っています。

担当者コメント スタッフ 牧山さん

子どもの居場所「じゃんぷ」西唐津は2020年8月、3名の子ども利用からスタートしました。「もっと子どもたち一人ひとりに寄り添い、必要などころに手厚い支援の手を差し伸べたい」当初の想いはブレることはありません。子どもたちの「ありのまま」に寄り添いながら傾聴に重きを置き見守りを行っています。居場所の必要性を感じながら、日々、子どもたちと関わっています。

利用者コメント 井上みちるさん

「じゃんぷ」は、ありのままの存在を肯定してもらえる居場所だと感じています。まるで、第二の実家。同じように感じる方が増えてくれると嬉しいです!

利用者コメント 山下沙織さん

子供たちがのびのび過ごせ、あたたかく見守られている環境なので、安心して送り出しています。ステキな活動をして下さり感謝しています。

2024年度以降の開所情報

- 場所: 佐賀県唐津市ニタ子1丁目9 (ニタ子公民館)
- 開所時間: (基本) 毎週 月・木・土 (13:15~19:00)
- 料金: 無料
- 連絡先: 080-1702-9031





いつでも誰でも肯定しあえる、みんなで作る居場所

運営団体：一般社団法人 ここてらす



地域の就労福祉団体がデザインし、みんなで手書きしたという壁画アートが印象的な「ここてらす」。

アート内では、春夏秋冬を象徴するイラストの中で、すべてのキャラクターが「肯定」を意味する「グッドサイン」をしており、「いつでも、誰でも、肯定し合える」空間が表現されています。

子どもの居場所運営においても、なかなか馴染めていない子がいたら、さりげなく一緒にご飯を食べたり、保護者さんが仕事でお迎えが遅くなるなどの場合、個別に延長対応したりと、子どもたちに「ひとりじゃない」を肌で感じてもらえる

よう意識して活動されています。また、寄付で譲り受けたというピアノもあり、ピアニストによる親子コンサートが開催されたり、居場所の閉所日は、レンタルスペース・レンタルキッチンとして間借りできる機能も備えており、地域の親子・ママさんたちの交流の場としても利用できる居場所となっています。

来所した子どもたちが、自発的に出来る範囲でのお手伝い(片付けや皿洗い等)を行うなど、子どもたちにとっても「みんなで一緒に作る居場所」として参加されています。



事業によって得られた成果

この3年間で個人賛助会員延べ136人、法人会員33社からご支援をいただきながら活動を続けてきました。会員以外にも、定期的な食糧支援などの協力をしてくださる個人や企業の皆さまも多く、とても心強い仲間が増えてきています。

日本財団さんや佐賀未来創造基金さん、基山町を含め、多くの方にここてらすを支えられ、今を迎えられていることを感謝いたします。おかげさまで助成期間中延べ2,500人の子どもたちを受け入れることができました。

続けてきた中で彼らの成長や変化を日々実感しています。小学生だった子が中学生になり、食後の皿洗い等を手伝ってくれるようになりました。また中学進学を不安に思っていた子に対して「怖くないよ」と中学生が優しく励ましていました。このようにここてらすにいる大人とだけでなく、子どもたち同士での会話や助け合いも多く見られました。

他にも、親子での利用の際に「食べるって楽しいね」という言葉が子どもから出てきました。普段はキッチンと食卓という離れた位置関係が、ここてらすでは隣同士に座りゆっく

運営後に見えてきた課題と対応策

ここてらすではより多くの子どもたちを受け入れられるよう、内装や空間づくりで工夫を続けています。また新しい活動として、いただいた食品や日用品などを、必要な方に自由に持って帰っていただけるパントリーコーナーも設置しました。2023年秋には基山町のスクールソーシャルワーカーの方を通して、地域の支援を必要とされている子育て世代

りとお話をしながら食事をとれたことで出てきた言葉ではないかと思えます。こうした一人一人の変化を感じながら、親子や地域の方々が心の安寧を感じられる居場所を続けています。

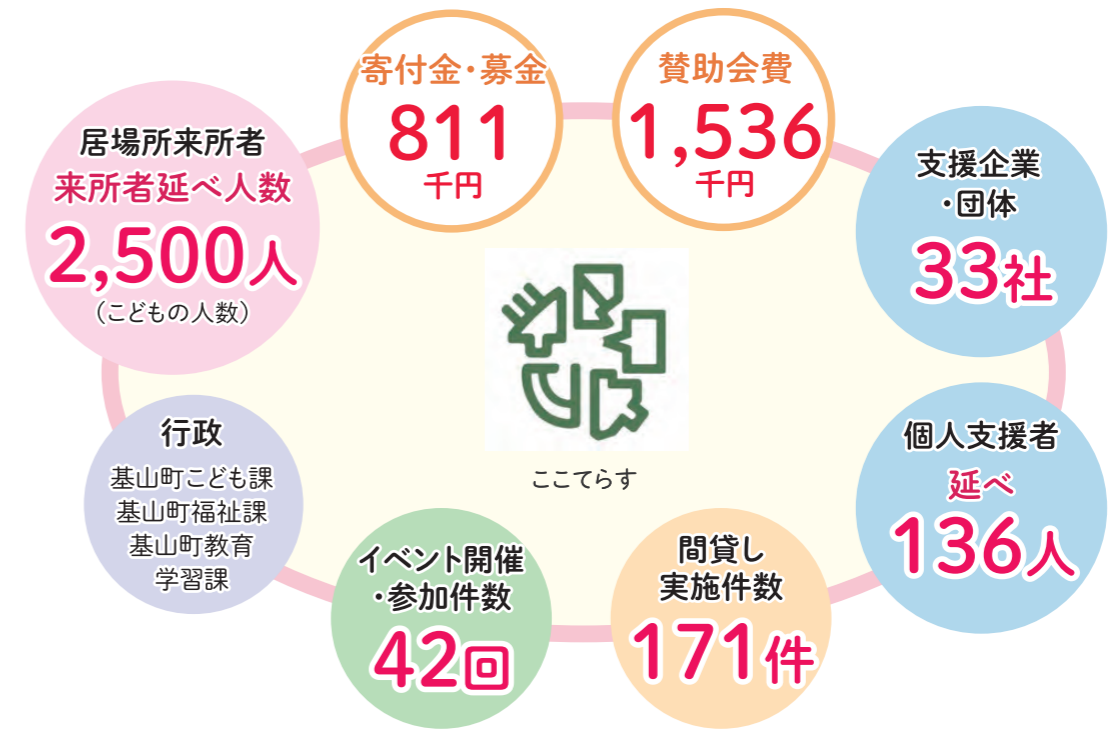
コロナ禍、さらには物価高騰と厳しい環境が続くなか、子どもたちの「放課後の居場所」があることでご家族の就労支援の場としての役割も果たしているのではないかと感じております。

また地域と繋がる活動として居場所閉所時に「時間貸し」をしており、たくさんの飲食店さんが出店してくださっています。初めての間借りをここてらすで行い、その後実店舗を持つようになった方もいました。ここてらすとしては起業を後押ししてきただけでなく、自分たちでは繋がれなかった多くの方に足を運んでいただくことができました。そこから賛助会員になってくださる方や、募金箱に寄付いただく方など、たくさんの繋がりが生まれ、ここてらす・出店者さん・地域の皆さんにとって好循環が生まれていると感じています。

への宅食やお弁当配布も開始しました。しかしながら、必要な方に情報が届いているのか、必要な方が利用しやすい仕組みになっているか不安は絶えません。さらなる資源調達へのチャレンジやボランティア募集を続けながら、子ども第三の居場所及びこれらの支援活動を続けてまいります。

■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



利用者コメント 大原さん

ここてらすを利用させてもらって本当に助かっております。理由はいくつかあるのですが、金銭面でも大きく助けられている他、仕事で遅くなったときに帰ってきてから準備等をはじめると食事の時間が遅くなり、寝るのも遅くなってしまいます。また、子どもが安心して行ける場所なので親としても不安がなく、スタッフの方が子供たちとの距離感を大切にしてくださるよう感じるため、そこでの信頼というものが子供たちは育んでいると感じています。子どもたちも楽しく過ごさせてもらっており、本当にありがとうございます。

支援者コメント 株式会社ワイ・デー・ケー九州  
管理本部 西美恵子さん

「ここてらす」の入江さんは当社の従業員の息子さんというご縁でご支援させていただくことになりました。当社も地域への社会貢献活動を模索していた中で新入社員研修会の一環で事業紹介の講和をいただいたりこちらから訪問させていただくことは、地域の活動やその実情を知るきっかけにもなっております。ただ単純に寄付をするだけでなく「ここてらす」を起点にいろいろな事に繋がっていけば、地域も企業も共に発展できると感じています。若者目線でチャレンジしてってください。応援しています。

担当者コメント 代表 入江さん



この3年間の間にたくさんの方に自分のできることを考え様々な支援をしていただきました。本当にありがとうございます。

これからも、子どもたちや地域のつながりや心の安寧につながる活動を行なっていきます。ここてらすという空間が子どもたちにとってどういう空間になるのか、基山町や地域をどう盛り上げられるか、ここてらすの変化を皆さんと一緒に作ってまいります。今後とも応援、お力添えよろしくお願い申し上げます。

2024年度以降の開所情報

- 📍 場所：佐賀県三養基郡基山町宮浦259-43
- 🕒 開所時間：月・水・金(17時～20時)
- 💰 料金：無料
- ☎ 連絡先：090-8350-1564



# 伴走支援の取り組み | 佐賀未来創造基金

本事業では、子ども第三の居場所を開設・運営される4拠点に対し、単に助成金を交付するだけでなく、その運営や組織基盤強化、事業終了後の自立運営に向けての各種伴走支援を実施させていただきました。

### 組織基盤整備支援

助成事業を実施するうえでの会計記帳や、法人運営において発生する各種義務やタスクについての相談を受け、必要な支援や専門家とのマッチングを実施。

### 定期面談／随時支援

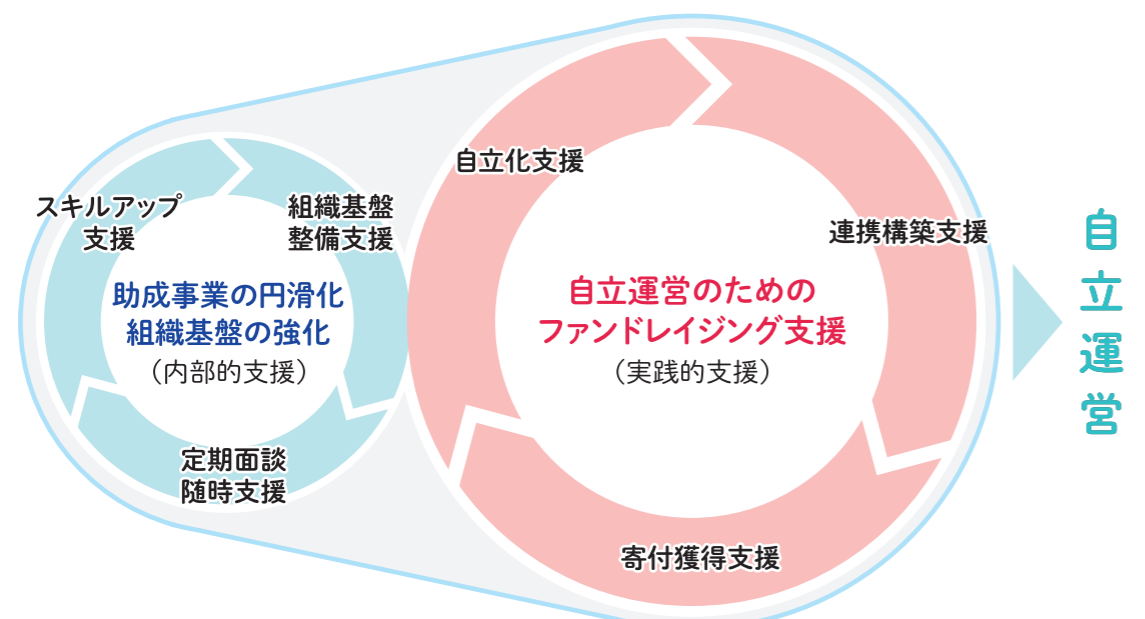
毎月の定期面談において、事業進捗の確認や、そのほか今困っていることなどを随時相談受け付け、支援しながら各拠点が事業に集中して活動できるよう支援を実施。

### スキルアップ支援

事業終了後の自立化と、円滑な拠点運営に資するためのスキルアップ研修を実施。

- ・子どもの居場所 総論
- ・ファンドレイジング
- ・情報発信／デザイン／IT活用

## 助成事業の円滑化と組織基盤の強化・安定化を図る支援



## 助成事業における事務支援

## 自立運営のためのファンドレイジング支援

### 連携構築支援

各拠点への継続的な支援につながるよう、行政や各種団体・企業等との連携構築に向けた情報共有を実施。

- ・佐賀県子ども家庭課(毎月)
- ・佐賀市、唐津市、基山町へは継続的に訪問

### 寄付獲得支援

法人や事業所への寄付訴求の営業同行や支援企業とのマッチング等の支援を実施。また、募金箱を使った地域支援者との継続的な関係づくりや、寄付決済システムを使った寄付メニューの提供などを実施。

### 自立化支援

各拠点の自立化に向けた、ファンドレイジングを総合的にコンサルティング。定例で目標の設定から進捗、状況に応じた路線変更などを拠点と一緒に考え自立へのアプローチを可視化していきました。

## 各拠点と同行で、市町首長へ事業開始のご報告と支援・協力依頼の表敬訪問を実施



## 各拠点における地域説明会の実施／事業説明



## 出口戦略伴走支援

2023・ここてらす①

■ 助成事業に向けて (2024年4月開業のイメージ)		
2023年度助成金の計画 (ファンドレイジング目標)	2023年4月時点の計画	
事業・人員費	1,200万円	この計画はファンドレイジングで集める「ここてらす」の寄付を集めることにより実現を目指す。
入居費	60万円×3人分 (180万円)	自立化準備は入居費の確保が最重要 (入居費の確保は収入を確保)
その他	設備費、消耗品費 (50万円)	設備費を確保することにより実現を目指す。
合計	ファンドレイジング目標 1,800万円 (2023年度助成金1,200万円+700万円)	1,800万円

■ 自立に向けて、入江さんの思い  
 社会実装の本気である (支援者様へ)  
 企業家としての経験やノウハウ、職人気質で現場の寄付金を確保しなくても事業は継続する  
 信頼関係の構築が大事 (2023年度助成金1,200万円) (2023年度助成金1,200万円)  
 現場の活動や課題は日々変わっていくが、ここてらすの活動は人々を笑顔にする  
 一歩ずつここてらすへの期待を届けて、また来年の活動の場にも取り組む。

各拠点が自立運営するために必要な目標・資金を割り出し、それに向けてどのようなファンドレイジングを行っていくのかを検討。月次で進捗状況を確認しながらアドバイスや必要に応じた支援を実施。

## 各拠点の寄付訴求リーフレット制作



寄付を集めるための広報ツールとして、各拠点と一緒に考え各拠点ごとのリーフレットを制作。寄付を集めるためには、どんな情報が活用できるのか、どんなターゲットに向けて活用していくのかなどファンドレイジングを進めるうえでの実践研修となりました。

## 個別研修により寄付訴求のためのホームページ制作支援

キラキラヒカル(子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津)

かがみこどもプラザ(ミライエ)

居場所そら、ここてらすについては、既存のホームページについて、コンテンツやデザインについての、研修を実施。

## 事業指定寄付プログラムを立ち上げ、寄付集めのツールとして提供

弊財団のホームページに、子ども第三の居場所事業の周知LPを制作。また、各拠点ごとに事業指定寄付プログラムを立ち上げ、オンライン決済システムを利用して、支援者が拠点へ寄付ができるプラットフォームを構築しました。

## 活動状況・履歴や拠点内情報を蓄積するWEBデータベースの提供

日々の活動や、居場所開催に関する情報を蓄積していくことで、今後の助成金申請や情報発信などに有用な情報財産になることを示唆し、それらをWEB上で登録・編集・管理できるデータベースシステムを開発。日々の活動を記録していくことで、将来必要な時に活用できることを体験していただける環境を提供。

### TOPICS

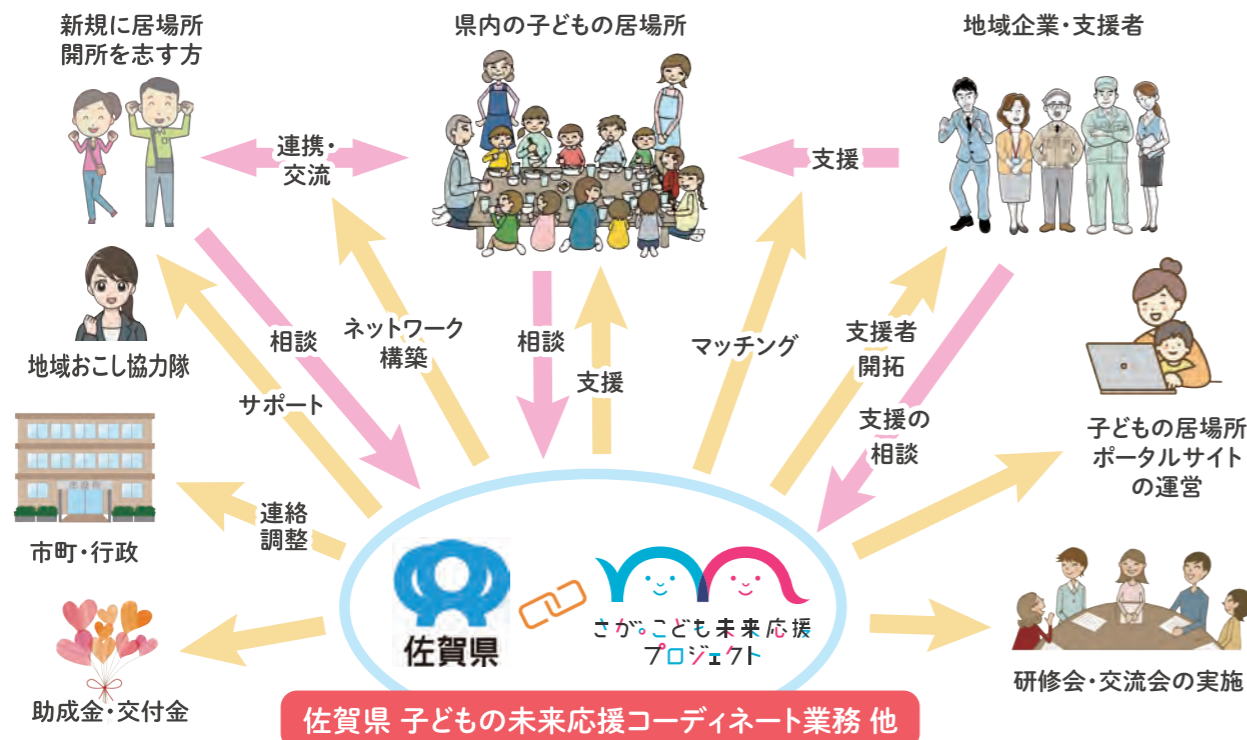
地域企業への寄付営業の流れから、当該企業での新人研修(SDGs)で、子どもの居場所についての活動を講義させていただき機会へつながり、結果的に講義を実施したここてらすにご寄付をいただくことができました。

また、その後も、職員さんがここてらすを訪問して下さるなど、寄付訴求活動が、居場所と地域企業とのつながりを創出した事例となりました。



## 佐賀県における行政との包括的な協働

佐賀県では、子どもの居場所をはじめとする子どもの貧困対策と、それに必要な地域資源を提供する企業等とのマッチング支援を行い、居場所の継続的な運営を後押しし、子どもの貧困対策の推進を図る取り組みを実施されています。子ども第三の居場所4拠点においても、上記バックアップの恩恵を受け、より効果的な事業展開を実施することができました。



**さが子どもの居場所のほん**

子どもの居場所新規立ち上げや、運営のための豆知識、県内の子どもの居場所紹介などをまとめたガイドブックを作成。子ども第三の居場所(本事業)から2拠点も事例として紹介されています。

**子どもの居場所ポータルサイトの運営**

佐賀県内の子どもの居場所一覧や、支援者情報、助成金情報などを随時更新し、既存の居場所運営者や新規立ち上げを志す方々へ、ホットな情報をお届けしています。

## 各市町からの応援メッセージ

**野中 美香さん**  
佐賀県 男女参画・こども局こども家庭課 課長

地域のつながりが薄れ、そこで暮らす人々の孤独・孤立化が心配される中、こども達が気軽に立ち寄れて、「ほっと」できる場所はこどもの成長にとってとても大切な存在だと考えています。今回の事業を活用して運営されている4つの居場所は、いずれも地域のこどもたちにとってなくてはならない大切な居場所になっています。そのような居場所を絶やさず、自立した運営を行っていくには、各方面からの継続的な支援が必要不可欠です。たくさんの方に愛され、応援をいただきながら継続的な運営、そして発展につながることを期待しています。

**藤本 哲也さん**  
佐賀市 子育て支援部 子育て総務課 副課長兼子育て政策係長

(居場所そらへの応援メッセージ)

日々の居場所の運営について、試行錯誤されながらも、子どもたちのためという熱い思いを持って運営に尽力されていることと思います。今では勤興小学校や成章中学校だけでなく、校区外からの利用や高校生などの幅広い利用があり、地域の重要な居場所として機能しています。今後も子どもや地域の方々にも愛される居場所であり続けるよう、市としてもサポートを続けていきます。

**楠田 美佐さん**  
唐津市保健福祉部副部長兼こども家庭課長

(子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津・ミライエへの応援メッセージ)

家庭でも学校でもない、こどもたちが自分らしくいられる“第三の居場所”は、孤独・孤立が問題視されている現代において、地域で暮らすこどもだけに限らず、こどもを育てる保護者にとっても大変重要なものになっています。日頃より「こどものために」という想いで、こども同士のつながり、地域とこどものつながり、保護者とのつながりを生み出すべく居場所の運営に尽力されている皆様には、心より敬意を表します。本市としまして「すべてのこどもが夢や希望に向かって成長できるまちづくり」を目指して、こどもたちがのびのびと成長できる環境、ホットできる居場所が更に広がっていくよう、協力していきたいと考えています。

**舟木 徳茂さん**  
基山町 こども課 こども未来係主幹兼こども家庭係長

(ここてらすへの応援メッセージ)

ここてらすは、家庭が抱える困難が複雑・深刻化する中、子どもが安心して過ごせる居場所を「みんなで一緒に作る」という理念のもと、一つひとつ課題を解決しながら様々な工夫を凝らした地道な活動を実践され、地域や子ども達にとってなくてはならない居場所となっています。基山町はここてらすの事業に対して連携・協働する協定を締結しており、今後も、子ども達が孤独を感じることなく、安心して過ごすことができる居場所であり続けるよう、応援していきます。

### 唐津市の子ども第三の居場所支援事例

2021年	2023年
ミライエ建築業者選定にかかわる入札会の支援	自走年度に向けた民間児クラ委託・他委託事業の相談支援
地域説明会での同席・支援呼びかけ協力	「イオンdeこども食堂」と第三の居場所とのマッチング
子ども第三の居場所開所式実施協力	市役所での子どもの居場所お弁当販売の実施協力*
子ども第三の居場所開所式実施協力	地域企業への支援呼びかけ・営業同行

(随時対応)地域からのお問合せ対応・助成金情報の提供 他



**POINT** 事業期間中、唐津市様より、積極的なパートナーシップでサポートいただきました。「ミライエ」「子どもの居場所「じゃんぷ」西唐津」の地域説明会同席・説明協力などの後方支援的なことから、子どもの居場所の資金調達としてのお弁当販売\*を唐津市役所内で実施できるよう協力していただき、文字通り二人三脚でご支援いただきました。

\* 市役所でのお弁当販売は現在休止中